

## 放課後等デイサービス 自己評価表

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室スペースとの関係で適切である	○			子ども一人あたり2.47㎡の床面性を確保、更衣室兼カームダウンのスペースも設けている
	2	職員の配置数は適切であるか	○			児童指導員、保育士、障害福祉サービス経験者を常時3人以上、指導スタッフとして配置している
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	○			エレベーターの完備、玄関スペースのフラット化など身体障害児でも利用できる設備を完備している
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に職員が参画しているか	○			4つの店舗が同じシステム、同じ意図をもって支援にあたるように月1度のスタッフ全員でのミーティングなどで随時意見交換を行っている
	5	保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか		○		評価表は今後活用する予定。しかし毎回、送迎を担っていただいている保護者と常に情報交換できている
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページに公開しているか		○		今後、ホームページ、通信誌等で公開する
	7	第三者外部評価を行い、評価結果を改善につなげているか	○			随時、チャットシステムの学ぶための見学者や研修者が全国から来塾され、また兄弟店からの研修なども実施しており第三者の視点で意見や感想をいただき、改善のヒントにしている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			毎月1回ミーティング時に講師を依頼しコミュニケーショントレーニングを重ねている。また定期的に外部講師も招き研修を重ねている。同時に自己研修費をスタッフに支給する制度を設けている
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			モニタリング時には必ずアンケート調査を行い、同時に聞き取り調査も行って毎回の指導の指標にしている
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			感覚ー運動アセスメントシートJSI-3Dを改良した評価尺度を利用している。またチャットチャット・スポーツ塾独自のタイプ分けシステムも採用しており指導の共有化、効率化を図っている
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			全利用者の指導アプローチをスタッフ全員で共有する会話を毎日実施している。
	12	活動プログラムが固定化されないように工夫しているか	○			指導者がプログラムを決めず、子どもらの自主性主体性からプログラムを提供するサービススタイルなので固定化はありえない。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか		○		平日、休日、長期休暇で特に課題の変更はしていない。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			保護者へのアンケート調査や聞き取り調査をもとに個別指導、ペアー指導、少人数集団指導の希望にそって指導計画を立案している
	15	支援開始前には職員間が必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			必ずその日の利用する子どもらの指導担当スタッフも割り振り、主と副などの役割分担を確認している
	16	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	○			必ず毎日指導スタッフひとりひとりが全スタッフの前で感想、気づき、問題点などを発表し共有化している
	17	日々の支援に関して正しく記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			利用実績記録票と併用してひとりひとりの指導記録を記入している。スタッフ全員が閲覧できるようにクラウド化も実施している。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			6か月に1度の割合でアンケート調査ならびに聞き取り調査などで保護者との会話の時間をつくっている。また必ず保護者が指導現場に同席されるので毎回の利用で意見交換を実施している。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせた支援を行っているか	○			運動・スポーツ指導を利用し運動機能の改善にとどまらず、コミュニケーションスキルやソーシャルスキルの獲得、向上にも力をいれている。またそのノウハウを同席していただいている保護者の方々と共有することに力をいれている。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議のその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			可能な限り児童発達管理責任者が参加している
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎児の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○			同席される保護者から随時情報提供していただいている。また所属学校からの見学も多数あり、支援の理解を共有している
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	○			医療的ケアの必要な児童の利用がない
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○			同席される保護者から随時情報提供していただいている。また所属されていた施設からの見学も多数あり、支援の理解を共有している
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス所から障害者福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○			利用に際しての全指導記録が保管されているので、要望があればいつでも提供できる
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			大阪市内の発達障害児のサポートする団体があつまる「ホットメールなにわ」の会合に定期的に参加し、情報収集をしている。また支援センター主催の研修会にも随時参加している
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		○		障害のない子どもとの交流の機会はありませんが、しかし、障害のある子の運動・スポーツに関する指導方法を啓発するための書籍の出版、指導者講座の開催、見学・研修の受け入れなどの交流啓発活動は実施している。また年に1回全店舗の利用者さんが参加できる運動会を開催し、交流を図っている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	○			大阪市中央区、高槻市の地域自立支援協議会児童部会には定期的に参加している
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題についての共通理解を持っているか	○			送迎を担っていただき、かつ指導場面に同席されている保護者の方とは毎回の利用の際に充実した意見交換を行っている
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○			運動・スポーツに関する相談だけでなく、運動・スポーツを利用した子どもさんの成長に役立つ情報は頻繁にお伝えしている
保護者への説明責任等	30	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			館内掲示とともに毎回の契約時に適切に説明、理解を実施している
	31	保護者の子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			経験豊富な障害児スポーツ指導員、元支援学校教員、児童指導員、保育士を中心に随時適切な相談、助言を実施している
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○			定期的に子育てに役立つ講演会などを外部講師に依頼し保護者さんに紹介し参加をうながしている
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			児童発達支援管理者を中心に苦情に対しては即時対応するように徹底している
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			年に2から3回の割合でチャット通信誌発行し、すべての利用者に運営の意図や現状報告をお知らせしている
	35	個人情報には十分注意しているか	○			必ず施錠できるロッカーに保管している
	36	障害のある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			毎回の利用時に必ず保護者との直接会話の時間をつくっている
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○		子育てや障害児のスポーツ指導法に関する講習会、研修会を随時実施し誰もが参加受講できる催しを開催している
非常時の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○			ファイリングし、いつでも一覧できるように訓練指導室に配置している
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			月に1回の避難訓練を実施。救命救急のための訓練を定期的実施している
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			必ず虐待に関する研修会にスタッフを参加させ、ミーティングで全スタッフに伝える時間を設けている
	41	どのような場合にもやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得たうえで、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○			同伴する保護者がいるので身体拘束が必要な利用者はいない
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			おやつ、食事の提供は行っていない
	43	ヒヤリハット事例集を作成し事業所内で共有しているか	○			ファイリングしすべてのスタッフが閲覧できるようにしている